

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育クラブゆかり		
○保護者評価実施期間	R7年 8月 18日 ～ R7年 8月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25 (回答者数)	19
○従業者評価実施期間	R7年 8月 1日 ～ R7年 8月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 8月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	空手を用いた運動療育により社会性を身に付けつつ体を動かしてストレスの発散を行い、達成する目標を定める事で、その目標に向けて努力する精神を育て、達成感を味わい心身共に健康になる事を推進している。月1で子ども相談室を開催し児童と対面し生活全般についてヒアリング、会話を通して話すこと、伝える事を練習している。	全体での指導、支援だけでなく、児童毎に個別で各児童のペースに合わせた指導、支援を行っている。常に五領域を意識し、プログラム終了後の反省等生かしている。	最難関の目標を達成した児童に対して次の目標、或いは継続して取り組める事を更に用意する。
2	利用日が曜日固定でなく保護者、利用者が参加したい行事、利用者側の予定に合わせて出席する日を選ぶことができる。職員の得意とする分野が多数ある、プログラミング教室、パソコン教室、空手教室、工作教室、園芸、書道教室	療育支援ツールにより利用登録、確認を簡単にできるようにしている。	ツールの私用マニュアルを改良し、保護者がもっと扱いやすい環境を整える。
3	出来る限り送迎を事業所側で行える体制を整えており、保護者の負担を軽減しつつ、利用者が保護者と離れた状態での移動に習熟し、将来の移行に備えている。	保護者、各送迎先（祖父母等）と連絡を密にし不測の事態に備えている。添乗員を可能な限り同乗させる努力をしている。	送迎時の通知システムについて周知を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	入所を控えた未就学児、学校を卒業し当施設から別の施設などに移行する児童の情報共有を各施設とあまり行えてない。	通常業務を優先し、別事業所との連絡がやや疎かになっている。	余裕のある時に連絡、情報共有を試みる。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 運動療育クラブゆかり

公表日 年月日 R7年10月20日

利用児童数 25

回収数 19

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	2		1	運動に特化した場面では狭く感じる時がある。	人数に応じて二階等も適時活用している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1		3		適切に配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1		3		バリアフリー化は残念ながら出来ていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	1		1		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	5	2	8	あまりよくわかりませんが、他との交流は求めているので、現状で満足しています。	
保護 者へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	1			紙面で提示されなくなつて情報を自分から取りに行かないといけないため理解しづらくなった。	療育支援ツールの有効な活用法を周知し保護者様の利便性向上を図る。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	5	2	3	いいえと答えた方のご意見 特に望んでいないので気にならない	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	1		1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6	3	4	6	特に望んでいないので気にならない	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18			1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		3	どちらともいえないと答えた方のご意見 マニュアルの有無を知らない。でも訓練はされている。	マニュアルの存在を印象付けるためお知らせ等を活用し定期的に公表している情報にアクセスする方法周知していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	19					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
運動療育クラブゆかり		R7年10月20日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用定員を考慮して出席予定事前に確認し、調整を図っている。	やむを得ず定員超過が発生する場合に一階二階の人数を調整を徹底する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8		十分な支援が行えるよう必要となる基本人員に加えて2～3名の追加人員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	階段には手すりを設置し、児童の怪我に配慮し緩衝材を壁や床等に配置している。	部屋ごとに表札などで用途をわかりやすくする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		1階トレーニング室、2階トレーニング室、勉強部屋、相談室、静養室、毎日片付け清掃を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		事情に応じて一対一、一人になれる場所を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		定期的にミーティングを行い業務に対する意見を募っている。	シフトで勤務日数が少なく参加しづらい職員がいる。そのような職員にも意見を求めやすい環境を整える。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		集計された内容やご意見について保護者様から直接詳細に話を聞き業務改善等に役立てている。	課題：質問の意図を掴みかていねる保護者が少なからず存在する。 改善案：今より詳細な補足を事業所側で行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的にミーティングを行い業務に対する意見を募っている。	課題：勤務日数が少なく参加しづらい職員がいる。 改善案：そのような職員にも意見を求めやすい環境を整える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	出来ていない。	いつも考えてはいる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		主に外部研修を奨励、支援し研修内容について参加していない職員も把握できるよう資料としてまとめている。	事業所内研修の機会を増やす。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		公開後の支援プログラムについても改善点が無いと話合っている。	保護者側からのフィードバックを求める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		保護者との面談や子ども相談室での話し合いを定期的に行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援会議に参加する職員が個別支援計画の作成に必要な要素を理解し、共通の視点を持った上で意見を出している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		療育支援ツールを活用し支援計画の確認等を容易にできる環境を整えている。	計画の把握に時間を要する
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントを重視し、チェックリストや強制選択を用いて児童の状況を把握している。	フォーマルアセスメントを導入する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		保護者様だけでなく児童にも個別支援計画の作成に必要・有用な情報を聞き取り、児童希望に沿う形の計画を立てている。	地域支援、連携の面がやや薄い。 より地域との交流を重視した支援を考慮する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		複数の職員がプログラム作成に携わり、妥当であるかどうかの話し合いをしている。	チームが流動的で情報共有が完全でなく同じ議題が出る事がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		活動プログラムの見直しをする機会を設け、適切でないと判断された物は廃止している。	ミーティングの頻度を上げる。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		各児童に合わせた支援方法を計画に記載し、支援ツールにより把握しやすい環境を整えている。	集団活動にやや寄っている。 個別活動の時間を確保する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		打ち合わせのまとめ役を流動的にしてすべての職員が確認すべき事項を意識し、把握しやすい環境にしている。	送迎の都合により打ち合わせに一部職員が参加できず後で情報共有する場合がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		朝礼で昨日の振り返り、申し送りを行い、今日の支援注意点を考えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		毎日の記録の中で特に重要な事は職員共有欄に記載して支援に活かしている。	定期ミーティングにて支援の注意点、改善…ヒヤリハットの検証をしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		保護者との面談で計画の内容の達成等に対する評価を頂きそちらからの視点もモニタリングに反映している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3		自立支援や余暇の提供を重視し、創作活動においても充実させられるよう機材を用意している。	地域交流の充実度はそれほどではない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		まず選択するという事を意識するため限られた選択肢の中から選ぶ事を重視し、徐々に視野を広げて選択できるように支援している。	現状で自己決定の難しい児童に対して今とは別の方法でアプローチする。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		当該児童の理解度の高い者の中でできるだけ直接支援、間接支援双方の点に長けた者を選ぶようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	送迎時学校の先生との情報交換をいつも心掛けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		密な情報共有を行い、細やかな連絡を心掛けている。	交流の薄い学校がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	4		情報共有を意識していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4		情報共有を意識していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	積極的に疑問点、改善が見込める点について意見を出すよう職員に指導している。	意識していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		どのような交流が適しているのか、情報を収集し交流を開始する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		支援ツールにより連絡、相談、話し合いのレスポンスを高めている。	課題：保護者多忙による連絡の見落としで連絡が滞ってしまう場合がある。 改善案：もっと気付きやすい連絡方法を考案する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		HP上に支援プログラム等を記載し、いつでも保護者が確認できるようにしている。	課題：保護者がHP上に各種情報が記載されていると気付かない場合がある。 改善案：HPの情報について周知する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		定期的な面談により意向の把握をしやすい環境を整えている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		支援ツールにより保護者が前回の計画との比較、モニタリング報告が簡単にいえるようにしている。	紙面で情報を得たいという意見も頂いている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	受けた相談事、面談内容について職員間で速やかに情報共有を行っている。	高度な判断が必要となる相談があり、そういった相談に対して回答に時間を要する場合がある。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5		考案された事はあるが保護者間スケジュールの調整が難しいとの判断で断念した。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情があった場合の記録、その後の対応をまとめ、いつでも確認できる場所に保管している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		支援ツールを介し保護者が確認しやすい形で情報を発信している。	課題：紙面で情報を得たいという意見も頂いている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の入った書類は鍵の付いた棚に保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		ルビを振った書類や意思疎通のための絵カードを用意している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	ソーメン流し、園芸の時は近所住民に周知している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		専門家にマニュアル作成を依頼し、それを元に訓練を行っている。	課題：保護者がHP上にそれらのマニュアルが存在すると気付いていない場合がある。 改善案：情報の周知を徹底する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		柔軟な計画の立案のため、計画作成時に職員から意見を求めている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アレルギー、てんかん等の情報を非常時用のバッグに紙媒体、電子媒体でまとめている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者から医師の指示等の情報が載っている緊急対応シートを書いていただきいつでも確認できる状態にしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		定期的な見直しをし、外部からの研修の情報も集めている。年回研修、見直しを行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		保護者がいつでも確認できるようHPに災害時等の流れを記載している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		いつでも確認できるよう電子媒体でも記録や考察を残している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に虐待が発生していないか、意識をし職員間で情報交換している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		やむを得ず身体拘束を行う可能性を考慮し、利用者の身体傷つける心配の無い素材の拘束具を備えている。	訓練、検討はしているが実際に身体拘束が起きた事が無く経験が浅い。